



キャンパス通信

日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

2024.4-2024.9

No.27

ipp eki



特集

赤十字活動II

スイスとインドネシアの学生と交流しました！

国際シンポジウム・フォーラムを実施!!

一 珀石

池松学長
就任挨拶

新學長就任挨拶

2024年4月に本学第6代
学長に就任いたしました池松裕子
(いけまつゆうこ)と申します。ど
うぞよろしくお願います。

わたしは熊本市で生まれ、看護学校卒業まで熊本で過ごしました。その後、神戸市の病院に就職し、主にICUで勤務しました。ICUでの勤務はともやりがいがあったのですが、学生時代に学んだことのないことばかりで、独学での勉強はとても大変でした。その当時ですら、すでにICUは全国に普及していましたので、もう少し学校で教えてもいいのではないかと思い、ICUにおける看護、すなわちクリティカルケア看護を教えようと思い立ちました。そこで、まずは教育の勉強のために横浜にある看護



第6代学長就任
池松裕子学長

教員養成課程に進学し、その後看護学校の教員をしながら留学準備をして、アメリカの大学院でクリティカルケア看護を学びました。留学当初は専門看護師のような臨床能力の修得を目指していたのですが、そのうちに、看護独自の知識が不足していること、その知識は看護師自ら創っていない、なくてはいけないことに気づき、博士課程に進学しました。

名古屋と比べると自然が豊かで食べ物もおいしく、なんといっても車の運転がしやすいので、アメリカにいたときのように自分で運転しているところに行ってみようと思います。

赤十字は日本の看護を創ってきたところです。赤十字の学校で学んだことも、赤十字の病院で働いたこともないわたしのいうものにも、知らず知らずのうちに、赤十字の看護が染みついていると思っています。そのような伝

本学は全国にある赤十字看護大学の中で唯一「国際」という名前がついた大学です。6月には、ハワイからのゲストを交えた国際シンポジウム・国際フォーラムが開かれました。わたしも、ハワイで購入了たチュニツクとネックレスでご挨拶をしました。これからさまざまな国際的なイベントを学生さんに体験してもらい、世界平和に貢献する人になってくれることを願っています。わたしも微力ながらそのお手伝いができればと思っています。卒業生の皆様にも、どうぞご指導・ご支援をよろしく願います。

スイスのラ・ソーヌ大学と
ロシアのアイランガ大学の
学生と共に学修しました!!

アイルラング大学から2名、
ラ・ソース大学から3名の学生たちが！

赤十字活動IIでは「災害時における赤十字の意義と役割」というテーマで、スイスのラ・ソーヌ大学とインドネシアのアイランガ大学の学生と共に3週間学習活動を行いました。

1週目は学内で、災害に関する講義や一次救命処置の演習、災害時要配慮者の支援について考えるための体験学習を行いました。講義では、災害がもたらす人道危機や健康障害について学び、急性期から静穏期・準備期における赤十字の取り組みや各国の災害対策、災害に対する意識について比較し、どのような行動が必要かディスカッションを行いました。

2週目は、福岡赤十字病院や福岡市民防災センター、大島で研修を行いました。福岡赤十字病院では、まず、病院の概要、看護部の理念や活動、今年1月に発生した能登半島地震の救護活動やバングラディッシュでの国際救護活動の話の話をうかがいました。次に災害時の対応の実態を知るために産婦人科病棟を訪問し、母子ともに安全に避難できるための方法、患者さんへの説明や職員の訓練などについて学びました。福岡市民防災センターでは、震度7の揺れや火災発生時の避難行動を体

験することで平常時から災害について正しい理解を深め、災害に備えることの重要性について再認識できました。

ドマップを使用して危険エリアや高齢者宅や住民数を把握したのち、実際に歩いて危険箇所や避難経路の確認を行いました。研修2日目は、地域の高齢者や子どもたちを対象に、防災リュックの作成や防災かるたを用いて災害時の避難行動や普段の災害の備えについて楽しく研修を行いました。2日間の研修を通して日ごろから地域のつながりを作ることの大切さを改めて学ぶことができました。

3週目はこれまでの学習成果をまとめ、「私たちが災害静穏期・準備期にできることはなにか」について発表しました。発表を通して、国によって災害の種類は異なるものの、赤十字が果たす使命や役割は世界で共通していること、看護職を目指す者として、被災者の命や健康を守ることや被害を最小限にするために、災害について学び続ける、その学びを身近な人や地域住民に還元していくことが必要だと学ぶことができました。



交流会の様子



全員で討論しているときの様子



学内での一次救命処置の様子



福岡赤十字病院での研修



大島でハザードマップの確認



福岡市民防災センターで
消火器を初体験

学部 / Undergraduate

学部2年

看護過程の展開実習



7月の看護過程の展開実習では、初めて自分で対象者さんを受け持ち、看護を実践しました。

私は、この実習を通して2つのことを学びました。

1つ目は仲間の大切さです。私たちは看護過程を今まで3ヶ月かけて学んできました。それを臨地実習期間中の約5日間でまとめる必要がありました。それを1人で進めていくことは大きな壁でした。しかし、同じ実習のメンバーと相談し合ったり悩み合ったりして進めることでより理解が深まり、仲間との関係性も良くなりました。今まであまり関わりのないメンバーもいましたが、今回の実習を通して仲良くなりました。

2つ目は看護学生として何ができるかを考えるきっかけになったことです。今回、看護過程を実践してみて感じたことは、やりたい援助はたくさんあるけど学生としてできることは何かを考える重要性です。例えば、環境整備ひとつでも、看護学生としてできることはたくさんあります。実際に、患者さんを受け持つからこそ、ご本人の悩みや困っていることを知ることができました。それらをどうアセスメントして、看護計画に表現していくのか、そこが大切なポイントなのではないかなと思います。

そして、今回の実習は、一言で言えばとても楽しかったです。臨床の看護師さんに、たくさんのことを教えていただいて、たくさんすることに疑問を持ち調べることで自分の理解がより深まりました。実習は看護についての疑問に対して実践・議論できるいい機会だと思います。自分のやりたいことに全力をそそぐことができた約3週間でした！

2年 長友 愛歩

学部3年

国際保健・看護II



今年是在留外国人に焦点を当てた国内研修に参加しました。

「外国人親子の生活の実態を知る」をテーマに、8月5日から8月10日、群馬県大泉町で研修を行いました。大泉町は群馬県の東南に位置し、群馬県内で最も小さな町です。大泉町は人口の約2割が外国人で、そのうち7割がブラジルなどの南米系です。近年では、アジア系外国人も増えており、約50カ国以上の人たちが住む国際ナショナルタウンへと変化している町です。南米系外国人が多い背景として、1908年に日本人が移民としてブラジルに渡り、その子にあたる日系ブラジル人が1990年に改正された入管法によって出稼ぎ労働者として来日し、定住しています。大泉町には工場が多く、正社員ではなく派遣社員として働いている人が多くいます。

私たちは、大泉町保健福祉総合センター、伊藤産婦人科、坂田保育園、西児童館、多文化コミュニティセンター、わくわく広場スタジアムポットの6箇所を訪問しました。各所での説明や見学を通して、活動の実態、外国人親子の生活の実態を知ることができました。各所では、言葉の壁が大きな課題であり、それぞれの場で通訳や携帯アプリを活用しながら外国人親子に関わっていることが分かりました。また、保健福祉総合センターでは、検診や健康体操、あそびの教室などが行われており、予防や早期発見に関するアプローチの有効性を再認識するとともに、国籍を問わず様々な人が共生するためには、生活における困難や不安、苦痛を取り除き、相互理解を深めることが大切であると実感しました。

今回の研修での学びをふまえ、対象者の意向や生活背景など様々な側面から全体像を理解し、常に相手のことを知ることに努め、看護を提供できるよう努力したいと思います。

3年 入江 桃子、佐藤 羽美、山口 紅梨



GARAPA
(外国人向けの町のお知らせ)などの説明を受けました



#01

研究計画（課題研究）発表会

今回の研究計画（課題研究）発表会は2年生のCNSコース・助産コースの学生達が対象でした。

発表後は、教員・学生からの質問や研究活動に関するアドバイスが多く、今後の学位論文作成に役立てていく発表会になりました。また、CNSに関心のある学部生、助産コースへの進学を考えている学部生も参加し、大学院でも学びを知る貴重な経験になったようです。



#03

大学院修士課程 助産コース1年生の講義風景

今年度は、4名の学生が大学院修士課程助産コースに入学しました。入学して3カ月経ち、演習も本格的になってきました。今回は、助産コース1年生の講義を少し紹介します。

講義で妊婦モデルを使用して胎児の位置を確認する触診や超音波ドップラー診断装置で胎児心音を確認する聴診の方法を学びました。その後、病院を訪問し、実際の妊婦さんの腹部の診察や超音波検査を行ったりしました。

大賀陽菜さん みんなでスクラブを着て演習するのは、この日が初めてでした。より専門的な技術を実施することができ、充実していました。

宮崎今日夏さん 学部の時と比べてより専門的な知識や技術が必要ですが、少人数での演習により、じっくりと時間をかけて深く学ぶことができました。

触診中です。
胎児の頭はどこにあるかな？



赤ちゃんは元気に育っているかな？



#02

上田奨学会献花式・ 奨学金貸与式を行いました

上田米蔵翁は、1958(昭和33)年、本学の前身である福岡赤十字高等看護学院(後の福岡赤十字看護専門学校)の創設時に多額のご芳志をご寄贈くださいました。



1968(昭和43)年には上田奨学金制度が発足し、福岡の赤十字看護師養成にご貢献いただきました。現在では、本学大学院生を対象に、奨学金が貸与されています。本学では毎年、米蔵翁のご偉功に敬意を表し、献花式を行っています。今年は7月8日、米蔵翁のご令孫である上田奨学会理事長上田康蔵氏と同会常任理事を務める本学の池松裕子学長が献花を行いました。

献花式後の理事会では、奨学生である博士課程と修士課程の大学院生2名が、Zoomを使って研究の進捗を報告しました。上田理事長より、奨学生へ研究活動に向けて激励のお言葉をいただきました。

#04

8月2日院生交流会

有意義な大学院生活を実現するため大学院生同志と教職員のつながりを促進し、モチベーションを高めることを目的に8月2日大学院生交流会を実施しました。参加者は大学院生14名(1年生8名、2年生6名)、教職員11名の合計25名でした。姫野研究科長からスタートし、順次、大学院生・教職員が、ユニークな自己紹介を行い、お互いのことを知りました。その後は質疑応答の時間でした。最後に教員からの“目指す看護職者像”の質問があり、大学院生がそれぞれ語り、皆についてより理解を深めることができました。



第22回国際シンポジウム・ 第13回フォーラムを実施!!

The 22nd International Symposium and the 13th Forum were held!

6月28日に、「地域における災害への備え」をテーマに第22回国際シンポジウム・第13回国際フォーラムを開催しました。

3年ぶりの開催となったシンポジウムでは、学生グループが宗像市の「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」として、地島で行ってきた3年間の活動について発表しました。

フォーラムでは、ハワイ大学から2名の先生をお招きし、ハワイ州における地域の防災活動や災害看護教育についてご講演いただきました。



Gary先生 岡田先生

花束贈呈

ゆいまーのわによる
エイサー披露



中央左から牧先生・岡田先生・Gary先生・池松学長
緒方先生・地島チーム・ボランティア学生

発表者の皆さん

国際シンポジウム

大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト

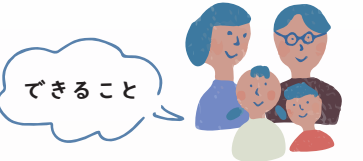
「それゆけ!!日赤生 in 地島」代表メンバー

3年：吉海直貴・赤木麻央・高橋朋花

2年：井上弥希・井口美紀・清水理紗・中尾彩花・松本涼花



ミライの
ために



できること

質疑応答の様子



国際フォーラム

Gary Glauberman 先生
(ハワイ大学マノア校 看護学部 准教授)

岡田 悠偉人 先生
(ハワイ大学がんセンター 疫学専門家)

シンポジウム 発表中の様子



国際シンポジウム - International Symposium

これまで3年間の活動内容や成果を全て英語で発表し、昨年度の防災教室でも実施した、防災リュックの詰め方や紐の長さを変えることで背負いやすくなるということ、会場の学生に体験してもらいました。また、会場入口付近に、備蓄食や様々な防災グッズを英語の紹介文を添えて展示しました。

会場内はもちろん、学園5大学にもオンラインで配信され、地島グループの活動をより多くの方に知っていただけました。発表した学生自身も、発表準備をする中で、これまでの活動での成果や課題点を改めて振り返る貴重な機会になりました。

そして、今回ゲストとしてお越しいただいた Dr. Glauberman, Dr. Okada が地島チームのアドバイザーに就任していただけることになりました。

国際フォーラム - International Forum

ハワイ大学の Gary Glauberman 先生と岡田先生より、昨年起きたマウイ島の山火事と、ハワイ州での防災活動についてご講演頂きました。先住民や移民も暮らす文化的多様性の高いハワイにおいて、災害時にどのようなことが障壁になるのか、災害対策に看護はどのような役割を担うことができるのか語られました。看護の状況をアセスメントして言語化する力は、災害対策においても、コミュニティでの研究や地域の様々な背景を持つ集団に合わせた対応、活動のリーダーとして生かせる強みです。その地域が価値をおくものに目を向け、地域住民と時間をかけて関係性を築き、「災害に対する文化をどう作っていくか」を考えて実践していくことはとても重要な看護の役割であるとの話は、看護師を目指す学生として印象に残りました。

防災活動は、地域住民の連携と協力により成り立っています。住民一人ひとりが防災意識を高め、互いに支え合い、災害時の被害を最小限に抑えられるように、看護の強みを生かして看護師としてできることを考え取り組んでいくことが大切であることを学びました。



フォーラムご講演中の様子

地域連携 教育センター

宗像高校の文化祭に参加しました！

2024年6月1日(土)に開催された福岡県立宗像高校文化祭に、ブースを出店しました。看護を知っていただくために、MR・VRを使用し人体の構造を立体的に見ることや、ドクターヘリの中を360度見る体験を行いました。学生が作成した「認知症捜してメール」登録のチラシも配布し、地域の皆さんに看護学生が大学で学んでいることを知ってもらう機会になりました。

当日は、宗像高校の卒業生を中心に、学生7名と教職員で対応しました。小さい子どもから高校生、地域住民の方々がブースに訪れてくれて、行列ができるほどでした。MR・VRを初めて体験する方が多く、目を輝かせて楽しむ姿やハートラちゃんと笑顔で写真を撮ったり、触れ合ったりする姿が見られました。

実際に看護大の授業で使用していることを伝えると日赤看護大学に興味を示す方も多く嬉しく感じました。今日の体験をきっかけに、看護を目指す方、関心を持つ方が増えてくれることを楽しみにしています。



ハートラちゃんと
学生ボランティアが大活躍



MRゴーグルを体験中
人体模型が見えています



“これでみんなもlittle看護師”を、今年は8月に開催！

例年、参加協力をしている、宗像市主催の「むなかた子ども大学メインキャンパス」に先立ち、今年度は「特設講座」を、8月8日に開催しました。宗像市内に住んでいる小学1～3年生38名にご参加頂き、対象となる小学生、その保護者のご兄弟も合わせ総勢約80名の方が来学しました。

「保護者の力を借りず、little看護師として、赤ちゃんのお世話を体験してみること。いのちの大切さを学ぶこと」を目標に、聴診器体験とオムツ交換を学びました。講座終了後には、「赤ちゃんのいろいろなことをしらべられて楽しかった」「しんぞうの音がよくわかった」という感想がありました。



グループで
仲良くなりました！



心臓の音、聞こえる？



オムツ交換って難しい！



令和6年度に着任した教員のうち、 2名の教員をご紹介します！

看護師になるきっかけは「フロレンス・ナイチンゲール」の伝記です。彼女は様々な偏見にもめげずに看護を

◎教員、または看護職を目指すたきっかけは
何でしょうか？

看護師になるきっかけは「フロレンス・ナイチンゲール」の伝記です。彼女は様々な偏見にもめげずに看護を推進する学問体系」と捉えています。そのことを基盤に学生の皆さんへの教育、開発途上国看護職の人材育成、日本で暮らす外国人の支援に取り組んでいます。

◎先生のご専門分野について
教えてください！



災害・国際看護学
森山 ますみ先生

◎学生に期待することは
何でしょうか？

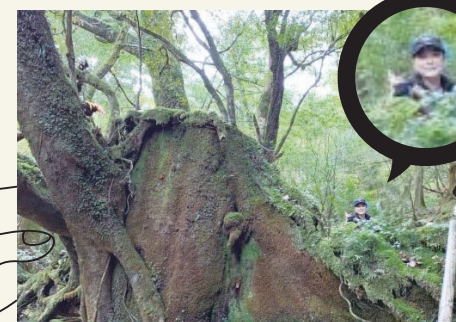
わたしは、人生においても、看護職者として働くうえでも、「知性」を磨くことが、とても大切だと考えています。「知性」とは「答えの無い問い」に対して、その問いを問い続ける能力と言われています。看護の現場ではその場時・人・状況に応じて、その答えのない課題の解決を探索し看護を提供することが求められています。その能力の基盤に「知性」がとても大切なのです。大学時代に「知性」を磨くことを期待しています。

森山先生の略歴

大分県日田市出身。京都第二赤十字病院、大分県済生会日田病院、訪問看護ステーションで看護師として実践を積む。青年海外協力隊、JICA専門家、JICA本邦研修コーディネーターとして国際協力活動に従事。国際看護活動の実践力を高めるために聖路加国際大学大学院(2005～2012)で学び博士号を取得。2009年、日本赤十字九州国際看護大学に入職し7年間勤務後、他の大学に移り経験を重ねて2024年再び本学に入職。

◎先生のご専門分野について
教えてください！

これから探求していきたい分野としては、「行動経済学ナッジ理論の健康教育への応用です。ナッジ理論は、行動経済学のリチャード・セイラー教授によって提唱された理論です。ナッジは、英語で「そとと後押しする」という意味で、非合理的な人間の行動や意思決定の特性に着目し、選択の自由を保障した上で、望ましい行動を科学的に後押しし、導くことを指します。元気に生き生きと暮らせる社会を目指し、より良い健康づくりのあり方を考えていきたいです。



ヘルスプロモーション
山田 桜子先生

◎教員、または看護職を目指すたきっかけは
何でしょうか？

看護職を目指すきっかけは、高校在学中の保健委員会での活動です。健康増進に向けた広報誌を作成したり、体育祭や文化祭で救護係をしたり、これらの経験から、健康を支える仕事として看護職を意識するようになりました。恥ずかしながら、その時には、保健師という仕事を全く知りませんでしたが、4年次の実習を通して、健康課題の解決に向けて予防活動を行う保健師に魅力を感じるようになりまし。今は、少しでもその楽しさを感じてもらえるように、学生さんと関わっていきいたいと思っています。

山田先生の略歴

大学院で保健看護学修士号を取得した後、9年間、行政、病院、労働衛生機関で保健師として勤務。大学教員として1年目となります。



令和6年度の新入生へインタビュー。大学生活でやりたいことは？

様々な
知識と経験を
積むこと！



北海道函館市出身
石崎 昊さん

Q 看護師を選んだ理由は？

A 医療従事者に小さい頃から憧れを抱いていて、中でも患者の気持ちに寄り添う役目を果たす看護師が自分に合っているのではないかと考えたから。

Q 今後の目標・将来の目標

A 看護師・保健師・養護教諭の資格を取得し、様々な視点から発展途上国の人々に医療支援をすること。

Q 大学のここが好き

A 単科大学であるからこそ先生や先輩、友達との距離が近くなること。大学が提供してくださるボランティア活動もあり、様々な人との関わりができたり沢山の情報を得ることができたりすることも魅力の一つです！

人間力を
深める！



静岡県静岡市出身
末永 勇輝さん

Q 本学を選んだ理由は？

A 実際に海外の紛争地や災害地などで活躍された先生方や先輩方の話を聞くことができるのは魅力だと感じたからです。

Q 大学で興味を持って学んでいること

A 看護学のみならず、心理学や憲法、哲学など様々なことを学ぶことができるのはとても楽しいです。

Q 今後の目標・将来の目標

A まずは学生の間に、正しい知識を学び、そして将来的に患者さんそれぞれにあった看護ができるよう努力していきたいです。

国際交流を
通して多くの人と
関わりたい！



静岡県伊東市出身
室野 花香さん

Q 本学を選んだ理由は？

A 国際交流や海外研修など国際的な活動にも力を入れており、私が目指す看護師になれると感じたから。

Q 今後の目標・将来の夢

A 在学中は、ボランティアに積極的に参加したい。将来は、以前住んでいたパラグアイなどの“医療が不足する地域”で看護師や保健師として活動したい。

Q 大学のここが好き

A 全国各地出身の友達や先輩、様々な活動をされてきた先生方と出会え、たくさんの人と繋がるのが出来ること。

図書館だより

学生選書ツアーを実施しました

2024年5月2日(木)、JR博多シティ8階のMARUZENで学生選書ツアーを実施しました。今回は、直前の募集でしたが、3・4年生の2名が参加してくれました。

学生たちは事前にチェックしていた本の棚に向かったり、歩きながら目についた本を手に取りそのまじつくり読んだり、書店ならではの本の出会いを楽しんでいるようでした。1時間半じつくりと、たくさん本を選書し、最後にそれぞれの一推しの本を数点選びました。

次回は秋に開催予定です！みなさんも学生選書ツアーに参加してみませんか？みなさんの人生を変えるような一冊に出会えるかも知れませんよ！

とても楽しい企画だからこそ、
もっと多くの学生に
参加してほしい。



購入図書リスト

- ・おしごとそうだんセンター
- ・救急ナースの看護技術 虎の巻く新人・先輩一緒に学べて根拠がわかる
- ・学生だから身につけたい看護につなげる大切なスキル
- ・看護師になるための目からウロコの45の気づき
- ・20代を無難に生きるな
- ・中井久夫 人と仕事
- ・やる気のスイッチ
- ・クリティカルケア看護入門
- ・「声にならない訴え」を理解する 改訂第2版
- ・心療内科医が教える本当の休み方
- ・看護につなぐ人体の構造と機能
- ・看護学生のための薬理学
- ・解剖学・生理学・生化学・病理学がスルスルつながる！わかる！
- ・珈琲店タレーランの事件簿
- ・また会えたなら、あなたの淹れた珈琲を (宝島社文庫)
- ・夜空に浮かぶ欠けた月たち

※古本募金とは

古本を査定会社に送ると査定会社が換金し、その金額が大学に寄付されるものです。得られた寄付金は、学生の学修に必要な図書の購入に充てられることとしています。

このツアーで選ばれた図書は、本学古本募金※で得られた寄付金により購入しています。本学古本募金にご協力くださったみなさまへこの場をお借りしてお礼を申し上げます。すとともに、引き続きご支援賜りたくお願い申し上げます。

Charibon
古本募金へのご協力
ありがとうございます!!



ビブリオバトル予選会を開催しました

第15回全国大学ビブリオバトルへの出場を目指し、7月25日、26日、本学で1回戦、2回戦の予選会を開催しました。2戦とも学部1年生3名ずつが、緊張しながらも、本の魅力をしっかりと語ってくれました。

会の後には、聴衆参加者として本学へ来てくださった他大学の司書、学生さんと発表学生たちとの交流もあり、リラックスして楽しく話す姿が印象的でした。

第3回戦、決勝戦は後期(10月頃)を予定しています。観覧はどなたでも可能です。ぜひ本学へ学生の発表を聞きにきてください！(詳細はホームページ等でご案内します)

1回戦



2回戦



02 Circle introduction

沖縄伝統芸能エイサーサークル「ゆいまーのわ」

エイサーという沖縄の伝統芸能を踊る珍しいサークルです。地域のお祭りや施設、学校で披露しています。

Q サークルの雰囲気は？

A 私たちのサークルでは、楽しみながら活動することを大切にしています。そのため、活動中は笑いの絶えない楽しいサークルで、先輩・後輩関係なく仲の良いサークルです。

Q サークルの魅力

A 沖縄の芸能を体感できるのが魅力の一つです。また、学内だけでなく、地域や海外の人とも交流しながら、4年間打ち込むことができるのも魅力です。

Q 今後の目標は？

A 現在、宗像市や周辺の地域のお祭りや施設、本学のイベントを中心に活動をしているので、1つでも多くのお祭りや施設に出向いてゆいまーの活動の輪がもっと広がるように活動していきたいです。また、昨年度は本学での留学生やJICA研修での交流会にも参加しました。そのため、海外の人とも交流する機会もあるので、エイサーやゆいまーのわの活動が世界中に広がるように活動していきます。



メンバー数
11名



ボランティアサークル「KDNS サークル」

災害医療に興味のある学生が主体となり、各種訓練や募金活動、県支部の方と一緒にイベントに参加しています。

Q サークル活動をしていて良かったこと

A 赤十字の学生として「困っている人を救いたい」という気持ちを持っている人は大勢いると思います。その気持ちをイベントを通して思いを伝えたり、共有することができたのが嬉しかったです。

Q サークルの魅力

A サークルメンバー、顧問の先生が一丸となって「こんなことしたい!!」という気持ちをくみ取り、形にしていける力があります!その根底には、「苦しんでいる人を救いたい」という気持ちがあるからだと思いますし、その気持ちを多くの学生が抱えていることが魅力の1つだと思います。

Q 私たちのサークルについて

A KDNSサークルは、有事の際や海外で活躍したい!と高い志を持つ人が多いように思います。しかし、平時でも、そして国内で困っている人や苦しみを抱えている人は大勢いると思うのです。皆さんの近くにおそらく…。まずは自分の身近から、そして目の前で苦しんでいる人がいたら、手を差し伸べることでできる人がたくさんいるサークルであってほしいと願っております。



メンバー数
63名



pick up



テニスコートが綺麗になりました!!

令和6年3月、苔や雑草が生えていたテニスコートを綺麗に修繕しました! テニスを楽しみたい学生さんは、学務課窓口で予約してご利用ください。(本学学生のみ利用可)。





大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けられました。「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの願いが込められています。

書：吉田 歩さん（2014年度 看護学部卒業生）



公式 SNS のご紹介

公式 SNS をフォローして、
「日本赤十字九州国際看護大学」を知ろう！



YouTube



https://www.youtube.com/@jrckicn_youtube

Instagram



大学公式Instagramです。
@jrckiyushu_college

一碧



本広報誌「一碧」は
Web版でも公開しています。

日本赤十字九州国際看護大学のホームページでは、最新の発信を更新しています。

[<https://www.jrckicn.ac.jp/>]

日本赤十字九州国際看護大学 🔍



∞ ———— 寄付のお願い ———— ∞

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。
寄付金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。
詳しくは、本学ホームページでご確認をお願いいたします。



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

発行: 日本赤十字九州国際看護大学

〒811-4157 福岡県宗像市アステイ1丁目1番地
Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021